

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 齋藤枝里

所属: 大分県立臼杵支援学校

記録日: H.29年 2月23日

キーワード: コミュニケーション、自信

## 【対象児の情報】

・学年: 高等部2年生

・障害名: 知的障がい

### ・障害と困難の内容

- ・小学校5・6年生程度の読み書きができる。不明瞭な発語をしてしまう言葉に関して、発語している通りに書いてしまうことがある。
- ・発語が不明瞭なことからコミュニケーションに対して苦手意識を持っている。  
慣れていない人に対しても、伝わりづらさを感じると、まだ話している途中でも諦めてしまう。  
慣れていない人に対しては、恥ずかしさや言葉の伝わりづらさ、伝える言葉の選択に悩んで、話しかけたり、話しかけられて答えたりすることができない。
- ・わからないことや少し不安なことは、自分で言葉で伝えるのではなく、雰囲気やジェスチャーなどで相手に思いを汲んでもらおうとする様子がある。
- ・失敗したくないとの思いから選択が必要な場面ではなかなか決められず、最後は苛立ってしまうことがある。

## 【活動目的】

- ・**当初のねらい:** 自信を持って自分の言葉を伝えるため、教師と一緒に考えた言葉や自分が活用できた言葉を綴っていく「My 言葉ノート」を iPhone に作る。(状況に応じて、そのノートから言葉を選んだり更に自分で増やしたりして、相手に声で伝えたり見せて伝えたりするツールとする。)
- ・**実施期間:** H.28年5月から H.29年2月
- ・**実施者:** 齋藤枝里
- ・**実施者と対象児の関係:** 担任

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・対象児の事前の状況

情報端末機器を使うことに関しては興味があるが、自分だけが情報端末機器を使うという環境が嫌で、人がたくさんいる前では使うことを渋る様子がある。

### <コミュニケーションを図る場面に際して>

基本的に、なるべく言葉で伝えたいという思いはとても強い。

### 慣れている人に対して

- ・伝えたい思いがあり話そうとするが、言葉の伝わりづらさや言葉として何と伝えて良いか分からず躊躇してしまう。
- ・分からないことがある時に、それを態度で表し、誰かにその思いを汲んでももらえない時には癩癩を起こすことがある。
- ・質問された内容に対して自信がない時は俯いて黙り、その場から立ち去ってしまうことが多いが、質問プリントにして渡すと2語文程で回答を書き、返す様子がある。

### 慣れていない人に対して

- ・話しかけられても俯いて黙ってしまい、会話が続かない。しかし、何か伝えなければならないような状況であれば、伝えることを教示と一緒に紙に文章化することで、それを読んで伝えたり、手渡して伝えたりすることができる。

・考えをうまく伝えることができないことで誤解をされ、後で「悔しい」と腹を立てて物に当たることがある。

### どちらにも共通すること

- ・挨拶やお礼などは、言わなければならない状況は理解しているが、恥ずかしさからなかなか言葉や態度で表すことができない。挨拶は、声をかけられても俯いてその場を去ってしまう。
- ・特に謝罪をするような場面は、謝ること自体のハードルが高くて難しい。
- ・自分の中の素直な気持ちを言葉にすることに対して恥ずかしさを強く感じており、なかなか表現することが難しい。

### **・活動の具体的内容**

本人があまりアプリにこだわらず、iPhoneの中に元からある機能を気軽に使って取り組みが行えるように注意を払った。

#### 「My 言葉ノート」作りに関して

本人から「何て言ったらいいん?」と言ってきた場合や言葉で伝えることが難しい場合に、教師と一緒に文章化してノートに保管した。

#### 「My 言葉ノート」の活用に関して

ノートの中から状況に応じた言葉を探して、それを声に出したり、相手に見せたりして伝えた。また、場合によっては直前に自分でiPhoneに打ち込み、声で伝えたり見せて伝えたりした。  
(挨拶もiPhoneを見せて行うことを提案した)



▲あまり気を張って使わなくていいように、以前から使っていたiPhoneの標準アプリ「メモ」を使用。

#### 伝える相手に関して

最初は、知っている人に対して伝えるように設定し、それを慣れない相手や初対面の相手へと伝える相手を広げた。

### **・対象児の事後の変化**

#### <慣れていない人がいたり、そうでない人がいる場面>

##### スクールバスの利用有無に関して伝える場面で

本校では他学部との教員とのコミュニケーションも兼ねて、下校時にスクールバスを利用するかどうかについて毎日乗車チェックに立っている教師に報告するようになっていく。

毎日、伝える教師が違うため、昨年までは教師側から

「高等部2年生の?〜」と促されながら、ジェスチャーで何とか思いを汲んでもらおうとしていた。今年度の取り組み当初はMy 言葉ノートを見せる日と見せない日があったが、現在はノートを使わず、言葉で伝えている。

##### 挨拶をする場面で

挨拶は、促しても1度もiPhoneに入れようとはしなかった。iPhoneを見せて挨拶を行うことに、違和感を感じるようで、「分かってる。自分で言う。」と話していた。その後、友だちや教員から挨拶を先にされる場面では、返そうとなんとなく口を動かさず様子がある。しかし、担任には吐息のようなくとも小さな声で挨拶ができ始めている。

##### 友だちに謝る場面で

言葉が足りずに友だちを傷つけてしまう場面が今までも校内で何度かあったため、そのような場面になった時に教師と一緒に謝る内容を文章にした。本人に「自分で言う?それとも見せて伝える?」と尋ねると「自分

今日はバス乗ります  
2016/06/27 追加テキストなし

今日はバス乗りません  
2016/05/31 追加テキストなし

▲本人が自分で考えて打ち込んだメモ。  
ずっとスクールバスに乗らない日が続いていたので「乗りません」というメモだけを準備していたが、6月の酷い雨の日にスクールバスに乗せたいと自分で準備した。



◀自分の乗車についてもだが、クラスの出席状況を担当教師に言葉で伝える様子が見られてい

で言う」と答えたため、その後の様子を見守った。なかなか謝る相手に声をかけられず、モジモジしていた様子があったが、結局メモを友だちに見せて読んでもらって謝るようにしていた。その後は、教師に促されることの方がまだ多いものの、同じようなトラブルがあった時には、「この後、どうすればいいかな？」という言葉かけで自分から「ごめん」という言葉はなんとか伝えることができ始めている。

### <慣れている人がいない場面>

#### 慣れていない教員に必要な書類をもらいに行く場面で

今年度からJRでの自力通学を始めている。その際、本校では自力通学の申請書が必要で、それを今まであまり関わりのない教師から受け取らなくてはならなかった。「なんて言えばいいん？」と尋ねてきたので、一緒にメモに記録した。打ち込んだ内容を何度か確認をした後、「自分で言う」と担当教師の後を追いかけたが、なかなか言い出せない様子があった。iPhoneを使おうと、何度かポケットから出そうとする様子も見られたが、結局は、最初に自分で決めたように言葉で教師に伝え、申請書を受け取ることができた。

#### 現場実習先での自己紹介をする場面で

昨年度の現場実習を振り返り、実習に向けて準備ができることがないかと本人と話し合った。「打ち合わせの時に挨拶できなかった」という言葉が返ってきたため、事前打ち合わせでの自己紹介をするための準備をした。

メモアプリに自己紹介用の言葉を自分で打ち込んだが、「これ、いいん？」と、実習先でいきなり使って良いか不安な様子があったため、使わせてもらうための断りの文章を最初に見せることを提案した。

6月の実習の事前打ち合わせの日は、朝から「これ使わんで言う」と言っていたので、「もちろんいいよ。とにかく今日はどんな方法でもいいから自己紹介をしよう」と言葉をかけた。

しかし、実際の場では緊張をしたようで、打ち込んだメモアプリを見せながら自己紹介を行った。

断りの文章を見せた時に、実習先の方がとても明るく受け入れてくださったことから、安心して次の自己紹介文を見せる様子があり、終わった後は表情が晴れ晴れとしていた。

1月の今年度2回目の実習の際は、本人に自己紹介をどうするか尋ねたところ、悩んでいた様子があったため、「前作ったメモを参考にして自分のやりやすい方法でやっていいからね。」と伝えていた。

校内でこの話をした際は、iPhoneを使って行うつもりでいたようだが、実習先では手にiPhoneを持ったまま自分の声で行った。隣にいた保護者さんも「私、こんな風に自分で挨拶するのを初めて聞きました！」と、とても驚いた様子をしていたが、本人は「できた」という達成感でいっぱいの表情をしていた。

#### 現場実習の際に考えられるハプニング場面で

事前学習の際に、通勤時にバスを乗り間違えた時などの対処について確認をした。その際に運転手さんに伝える言葉をメモしておくように伝えたものの、本人がメモに記録しながらいない様子があった。しかし、通勤時にバスを乗り間違えるハプニングがあり、教師に慌てて電話をかけてくることがあった。その時に電話の向こうで「このバス、〇〇に行きますか？」とはっきりした口調で運転手に尋ねる声が聞こえ、とても驚いた。もしかしたら、本人にとってはこのような場面での危機回避の言葉が、メモとして残さなくても今までの生活経験から「自分で伝えられる」と感じた、自信のある言葉だったのではないかと考えている。

「ちゃんに意地悪言ったつもりはなかったんよ  
あの時、さんが悪そうやったけん  
さんの着替える場所をあげてあげようと思ったんよ  
言葉が足りんで、ちゃんに嫌な思いさせてごめん

▲「My 言葉ノート」に教師と一緒に記録した「謝りたい」思いのメモ



▲職員室まで後を追いかけて、職員室入り口でiPhoneを取り出すか悩んでいたが、入り口で練習を繰り返し、言葉で伝えることができた。

私は人前で話すのが苦手なのでこれを使わせて下さい。

<実習

白杵支援学校の高等部2年の  
です。二週間よろしくお願いします。

▲生徒がメモした自己紹介文

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

○「My 言葉ノート」の、iPhone を見せても受け入れてもらえるという安心感は、コミュニケーションのハードルを下げる事ができた。また、ノートを作ることで最初に会話の内容が整理でき、更に伝えたい気持ちが後押しをして言葉でのコミュニケーションをしやすくしているのではないかな。

○1度作った「My 言葉ノート」は、成功体験の言葉が集まるため、似たような場面があった場合、本人がパターンを変えて伝えるのに容易であったのではないだろうか。また、iPhone にしたことで持ち運びがしやすく、すぐその場で打ち込んだり確認できたりが気楽に行えたのではないかな。

### ・エビデンス(具体的数値など)

#### 校外学習の場面で

・昨年まで校外学習に行った際は、注文などを自分で行うことが難しく、教師が代わりに伝えたり、店員から尋ねてもらいながらジェスチャーで受け答えをして汲んでもらったりしていた。しかし、事前に会話内容を整理しておけたことで店員に伝える直前までそれを確認し、一人で言葉で伝えることができた。修学旅行は、その積み重ねもあり、教師から離れて「ここから一番近い、飲み物が買えるところはどこですか?」と尋ねて自分の要件を済ませることができた。

・友だちと会話をするが増えたが、言葉が足りずに相手に誤解を与えてしまい、トラブルになることが何度もあった。「ごめんね」という言葉を使うことに、自分が悪いと分かっているにもかかわらず抵抗感があったり、「何て言ってもいいか分からんもん」とこれ以上トラブルになりたくないという思いがあったようだった。取り組みを始めてから以降、同じようなトラブルがあった時に、自分からすぐに友だちの所へ行き、「My 言葉ノート」を少し変えながら言葉で伝えることができています。

また、同じようなトラブルにならないように、似たような状況の時には「こう伝えれば良かったんじゃない?」と教師と整理した言葉を伝えることができ始めている。うまく伝えられた時にはその旨を報告してくれるなど、自分でも気持ちが軽くなる様子であった。

・伝えることに自信がついてきているのか「児童生徒会役員選挙に出て役員になりたい」との本人からの申し出があった。他にも立候補者がいたり、急にコミュニケーションを図らなければならないような場面があることを伝えましたが、「もし落選しても、自分がやりたいことをみんなに知ってもらいたい。当選したらもっと頑張りたい。」と非常に前向きに考えていた。

自分で考えをまとめる際に、自信がなくていつも「何て書いたらいいん?分からん」と、教師のアシストを待つことが多かった。しかし、この時期くらいを境に、自分で言葉を文章にすることが多くなってきている。

また、他学年の教師からは、「最近、よく話しかけてくれるんですよ。びっくりしてます!」との声が上がっている。

チャージを千円分お願いします  
月曜日 追加テキストなし

▲校外学習で、コンビニエンスストアで IC カードにチャージをお願いする時の記録



▲自分から友だちを探して「ごめんね」と伝えに行っている様子。

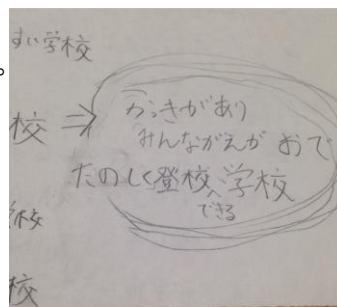
「が具合が悪いけん、あんまり側にいらん方がいいと思うよ

▲トラブルになったことで、どのように伝えたら良かったのか教師と一緒にノートに記録

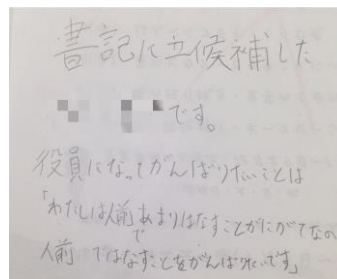
「ちゃんがさ、そばにずっといました。

「ちゃんに近くにおらんほうがいいよっていいました

◀教師が不在の時に、記録しておいた「My 言葉ノート」を参考にしてトラブルにならずに伝えられたと報告してくれたメール。



◀「どんな学校にしていきたいかを一人で考えてまとめたメモ書き。「かっきがあり、みんながえが おて たのしく登校できる学校」と、これを公約にしていた。



◀「書記に立候補した〇です。役員になってがんばりたいことは、わたしは人前であまり話すことが苦手なので、人前で話すことにがんばりたいです。」と書かれている。自分で文章にすることが苦手だったので、このようにして持ってきたことに周りの教員も驚いた。

## ・その他エピソード(画像などを含めて)

対象生徒は、中学までは休むことも多く、あまり学校で自分から人前に出ることがなかったと保護者さんから伺っていた。現在は、少し調子が良くなっても「学校行きたいけん、連れて行って!」と仕事中の保護者に連絡をしてお願いをするほどの様子があるとのことだった。保護者さんは「中学校の3年間と様子が違って、私も本当にびっくりで…成長を感じます。」

とおっしゃっていた。

本人が立会演説会での挨拶文を考えている時に、高等部に入学して中学校と何が違うと感じているのか、具合が悪いのに無理してまで学校に来たいと思うのはなぜなのかを尋ねてみた。

生徒は真剣に考えて恥ずかしそうに「ここはな…差別がない。

みんな同じ目で見えてくれるけん…だけん好き。」と答えた。

自分の素直な思いを声に出して伝えることに抵抗感のある生徒だけに、

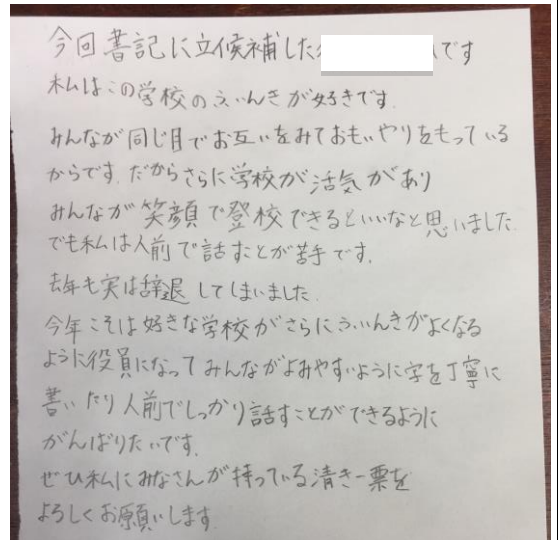
この答えにとっても驚いた。

役員選挙に当選した対象生徒は、他に立候補していたのに落選してしまった友だちや学校のために頑張りたいと、自分の言葉でとても意欲的に行動を始めている。

先日、同じ役員になる後輩に自分の言動で嫌な思いをさせてしまっているということを知った。本人には全く覚えがなかったようだが、「どうしたらいいと思う?」と尋ねると、「謝る」とすぐに言葉が返ってきた。

「①言葉で謝る ②手紙で謝る どの方法でもいいと思うよ」と、伝えると本人は②番を選んで一生懸命悩みながら手紙を書いた。そこには、「そんなつもりはなかったけど、嫌な思いをさせてごめん。」という言葉に添えて「これから一緒に、生徒会を盛り上げていこう」という言葉が加えられていた。また、手紙を渡す際には、声で「ごめんな」という言葉も添えた。

コミュニケーションのハードルを下げたことは、意欲的な行動に繋がってきていると同時に、友だちとの良い関係を築いていくコミュニケーションの幅を広げるきっかけ作りもなってきている。



▲立会演説会に向けて考えた挨拶文。言い回しなどは、少し教師の支援が入ったものの、対象生徒の素直な思いが込められた内容の文章を作成することができた。